

創造する名古屋の街づくりインタビュー編

△ 2 △

しい。

伊藤 いつから「栄ミナミ」ばちゃん達。一緒にボランティアという名前が出来たのか。伊藤 深田さんが街づくり

長、藤井英明氏が名づけた。の文化をなんとか住吉やこのなにか。彼は言葉づくりの名人。名古屋地区に展開したいなど。そう

固く、そこに多くの人たちが住んでいた。この川は旧石器時代の堅三蔵遺跡、縄文時代の白川公園遺跡・紫川遺跡に

沿って流れている。まずはそ 彼は、栄ミナミに飲食街や 題は統一のアイデンティティは、ホテルを作る時に街づく

挨拶と掃除基本に統一感

のホテルはとにかくそれが下手だった。またアメリカに行くと

伊藤 栄ミナミの歴史的な背景から教えてほしい。

深田 昔からこの地域には、人が3万4万年前から住んでいた。なぜかという水があったから。住吉一帯は泉に恵まれ川の源流となっていた。紫川と呼ばれ、源流は私の実家の葛茂界隈で、標高差44、流域1.5。科学館の前を通り、伏見通りを南下して若宮通りを西に洲崎神社の南から堀川に暗渠として現在も流れている。地盤も

料亭葛茂社長(栄ミナミ地域活性化協議会会長) 深田 正雄氏



「お互いに顔が分かること。コミュニティはセキュリティだ」と語る深田氏

を展開した。藤井が全然ない。各地区がバラバラのコミュニティの良さを知

氏に、サンデーフラ。そこで「栄ミナミ地域活性化協議会」を立ち上げ街づくりの桑原宏司くりに取り組んだ。氏、アイ・アンド 伊藤 どのような街づくりの取り組みを考えているか。

しかし、何といはまたない。街の開発についても地元のみならず、高層化は控えて、すなわが飛んでくる高さまでいれたことだ。一番いんではないか。ヒューマン掲載

【名古屋工業大学大学院准教授 伊藤孝紀】

〈次回から社会面で月曜に